入学当初に教養の重要性を学び、4年間の学びの「志」を立てる

東京工業大学　「東工大立志プロジェクト」

講堂講義とグループワークをセットで行い、自らの考えを深める

同じ話を聴いても、ほかの学生が自分とは全く異なる考えを持つことが新鮮でした。先生の話をそのまま受け入れるのではなく、時には疑問を持ち、仲間と話し合う中で、新たな考えを生み出すことができたのは貴重な体験でした。（浅沼さん）

講義内容をノートにまとめ、自分なりに捉え直す

講義はメモを取りながら聴き、「ふりかえりノート」に要旨と自分の考えをまとめます。書くことで考えが整理され、グループワークでの議論が深まりました。（浅沼さん）

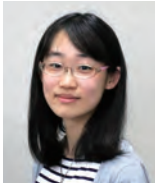
話し合いのキーワードは紙の円卓「えんたくん」に書いて、議論を深める

グループワークでは、円形の段ボールを膝に載せ、そこにキーワードを書きながら話を進めていきます。仲間の意見を発展させながら、スムーズに対話を進めることができます。（蛭田さん）

リベラルアーツ教育で学びの土台を築く

東京工業大学では、教養教育と専門教育を織り交ぜながら学修し、知識や能力を育む「くさび型教育」を重視している。その要となる科目が、新入生全員が第1クォーター（4～6月）に履修する「東工大立志プロジェクト」だ。著名な講師による講堂講義と少人数のグループワークをセットで行い、入学当初に自らの学びの道しるべとなる「志」を立てさせることをねらいとしている。

講堂講義では、ジャーナリスト、劇作家、僧侶などが登壇し、「教養とは何か」「現代日本のリーダー像」といったテーマについて深く考えさ



理学院　物理学系
学士課程2年（＊）
浅沼遥香
あさぬま・はるか
愛知県立明和高校卒業。高校時代は物理部に所属し、物理を学べる理学院に入学。

物質理工学院　材料系
学士課程2年（＊）
蛭田彩人
ひるた・あやと
神奈川県立希望ケ丘高校卒業。環境問題に関心があり、物質理工学院に入学。

＊東京工業大学は2016年4月、学部と大学院を統一し、「学院」を創設。1年目は、7つの「類」から1つを選択、2年目にはより詳細な「系」を選択。大学院課程では「コース」を選択する。

せた上で、自分の「志」を模索させる。物質理工学院学士課程2年の蛭田彩人さんが、特に印象に残っているのは、本学の特命教授である池上彰先生の講義だと言う。

「私は、専門的な知識を極めたいと意気込み入学しましたが、池上先生の話を聞き、グローバル社会で活躍するには、教養科目を学ぶことも非常に重要だと分かりました。それ以降、毎週欠かさず本を読むようになりました」

本科目の中にも、課題図書を読んで書評を書き、発表する機会が設けられている。理学院学士課程2年の浅沼遥香さんは、文芸批評家と数学者による対話集を読み、より学びへの姿勢が積極的になったと言う。

「専門分野の異なる2人が、様々なテーマについて深く語り合っていることに驚きました。世界をリードする人材になるには、専門領域だけでなく、広く世界を知ることも重要だと分かり、目的意識を持って教養科目を履修したいと思いました」

4人1組での対話を通して思考する力を鍛える

本科目では、講堂講義でインプットを行うだけでなく、アウトプットも大切にしている。講堂講義後の翌週に行われる少人数のグループワークでは、初回に「ホームグループ」という4人組をつくり、毎回その仲間と講堂講義の要点や感想について話し合い、クラスで発表する。少人数での対話を通して、自らの考えを深める力を鍛えていく。

「時には、『ホームグループ』内で意見がまとまらないこともありますが、それも1つの答えだと思うようになりました。対話を通して、自分たちで学びをつくっていく面白さを実感しました」（蛭田さん）

浅沼さんは、対話を通して、多様な視点で物事を考える重要性を学んだと言う。

「哲学者の先生による講堂講義後のグループワークが印象的でした。自分のように高校時代に哲学を学んだことがある人もいれば、哲学を学ぶのは初めてという人もいました。そのため、グループでの対話では、多様な視点から様々な意見が出て、自分が考えもしなかった新しい視点で哲学を捉えることができました。講堂講義の内容はもちろん、自分自身の理解も深まりました」

また、少人数の対話で傾聴・発表を繰り返すことで、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルも磨いていく。

人とのつながりで自らの「志」を成長させる

本科目の最終授業では、クラス全員の前で今後の「志」をプレゼンテーションする。

「私は、『卒業までに本を500冊読む』と宣言しました。読書好きの友人に面白い本を薦めてもらいながら、ジャンルを問わずに本を読み、教養を深めていきたいと思います。また、この科目を通して自分は人とコミュニケーションを取ることが得意だと分かり、将来は、それを生かせる仕事ができればと考えています」（蛭田さん）

「私は、将来起業したいと思っています。また、学びたい学問は物理なので、志と学びをどうつなげていくのかを模索中です。それも、自分1人で考えるだけでなく、学内の仲間はもちろん、留学をして海外の学生たちとも対話をしながら、自分の進むべき道を見つけていきたいです」（浅沼さん）

大学の思い

学びの姿勢が変わり授業への積極性が生まれた

リベラルアーツ研究教育院 教授
山崎太郎
やまざき・たろう

2016年度にスタートした「東工大立志プロジェクト」の一番のねらいは、大学での学びを通してどんな自分になりたいかを考えさせることです。「志」があれば、目的意識を持って学びに取り組めます。

これまでは、教養科目は楽に単位が取れる科目を履修すればよいという学生も見受けられました。私は「オペラへの招待」という教養科目を担当していますが、「東工大立志プロジェクト」を履修した現2年生の授業態度は大変前向きで、大きな手応えを感じています。講堂講義でも、回を追うごとに質問する学生の数が増え、質問内容も鋭いものが多く感じています。

1年目に立てた「志」は、3年目の「教養卒論」という科目で、成果を検証してもらう予定です。1年目の「ホームグループ」の仲間と再び集まり、各自がどんなストーリーを立てて教養科目を履修し、どのように自分を成長させることができたのかを「教養卒論」として文章にまとめ、発表します。私も、2年後に成長した学生と語り合える日が、今から楽しみです。